

植物多様性センターの「チカラシバの変わり者」

情報館前の池のほとりに一風変わったチカラシバがあります。チカラシバはイネ科の多年草で、秋に試験管ブラシそっくりの細長い穂をつけます。ところが、この変わり者のチカラシバには穂に緑色の葉が混じっているのです。通常のチカラシバは「引つき虫」と呼ばれるチクチクした種子をつけ、それが動物の体について運ばれ殖えていきます。ランの高芽のような無性芽をつけるこの個体は、いったいどうやって殖えるのでしょうか？



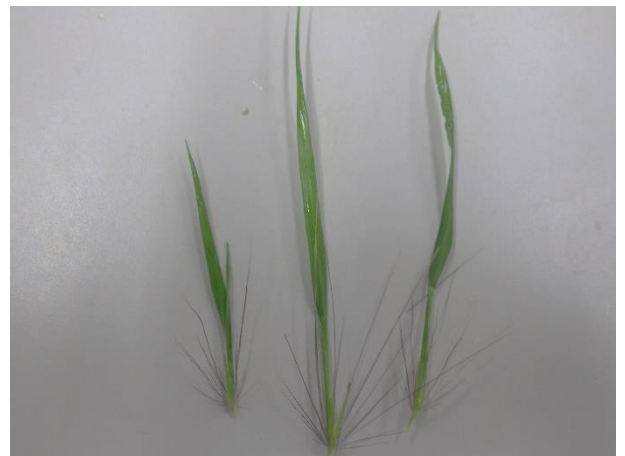
ふつうのチカラシバ: 田んぼの畔道や里山のありふれた植物



花: 黒紫色のとげとげのノギ(総苞)に基部を包まれる



無性芽と思われるものをつける
個体: 穂の中に緑の葉が見える



穂から外した状態: 根があれば
イネ科の幼苗そのもの